

塩竈の歩み



▲昭和30年代の魚市場(市民提供)



◀昭和50年代の魚市場
(観光のしおがま写真コンクール入選作品)

時代とともに、進化してきた

塩竈市魚市場

塩竈市魚市場開設の歴史は、昭和4年にさかのぼります。当時の魚市場は、現在のマリンゲート塩釜の辺りにあり、東北で初めての水道施設を完備するとともに貨物引込線を敷設して鉄道と直結するなど、魚市場の施設としては、東洋一の規模を誇りました。遠洋漁業の利を得た塩釜漁港は、年ごとに大発展を遂げ、全国有数の漁港となり、魚市場は活気に満ち溢れていました。

太平洋戦争時には、燃料や漁船の不足、漁船員の徴用の影響などにより、水揚げ量が激減しました。しかし、終戦後、漁船の大型化や漁法の改良などによって、大量水揚げが続ぎ、旧来の魚市場施設では対応しきれなくなりました。その状況を打開するため、昭和40年に現在の魚市場がある新浜町に移転し、現在まで本市の基盤産業を支えてきました。

魚市場は、東日本大震災により大きなダメージを受けたことから、新塩竈市魚市場が建てられました。おさかなミュージアムや展望デッキを備え、本市水産業復興のシンボルとして活躍が期待されています。

しおがまの昔・懐かし

思い出写真館 ②④

塩竈市80年の歴史を振り返る



写真は、昭和35年5月24日に発生したチリ地震津波の被害の状況です。道路に船が打ち上げられ、車がさまざまな方向を向いています。

塩竈市杉村惇美術館では、1960年に起きたチリ地震津波に焦点をあてた写真展「1960年5月24日〜あの頃とそれから」を開催しています。

詳しくは、18ページをご覧ください。

SHIOGAMA 80th ANNIVERSARY



塩竈市市制施行80周年

塩竈市は、もうすぐ80歳

11月に市制施行80周年を迎えるにあたり、さまざまな記念事業を行います。皆さんも記念事業に参加して、一緒に80周年をお祝いしませんか。

問 総務課総務係 ☎022-355-5007

ライフイベント記念事業

塩竈市に婚姻届を提出されたご夫婦へ、市内で利用できる食事券とお二人の写真を入れた婚姻届の写しを証書ファイルに入れてプレゼントします。

市役所本庁舎1階正面玄関右手に「フォトスタジオ」を設置しました。お二人の記念にご利用ください。



詳しくは、市ホームページをご覧ください。



▶スタジオは、淡いピンク色を基調としました。照明や自撮り棒も用意しています

◀塩竈桜を描いた婚姻届で、お二人の大切な門出をお祝いします



問 市民安全課窓口係 ☎022-355-6494

原動機付自転車(50cc)オリジナルナンバープレートデザイン募集

ふるさと塩竈への誇りや、さらに愛着を高めることを目的に、原動機付自転車(50cc)オリジナルナンバープレートを作成します。市の特色が表現された、魅力あふれる市独自のナンバープレートのデザインを広く募集します。



詳しくは、市ホームページまたは、税務課(本庁舎1階)で配布している応募用紙をご覧ください。

応募資格 どなたでも応募できます。(個人・団体を問いません。)

応募期間 4月28日(水)~6月30日(水) 必着

応募方法 電子メール・郵送・持参のいずれかの方法で応募ください。

問 税務課諸税係 ☎022-355-5849

第9回全国醤油サミットin塩竈

全国醤油サミットは、日本の食文化の原点である「醤油」に着目し、「醤油」を活かしたまちおこしを図ることを目的として、平成19年から全国各地で開催されています。

その全国醤油サミットが、11月に塩竈市で開催されます。各地域で大切に育ててきた「醤油」を全国・世界へ情報発信し、和食に不可欠な調味料である醤油への理解を深め、消費拡大や今後の醤油文化と市内食産業のさらなる発展を目指します。

醤油サミットに向けて「レシピコンテスト」「醤油の未来と食文化を考えるディスカッション」など、醤油を楽しみ、育み、つなげる催しを行います。



現在の醤油醸造元2店舗(写真左 荻原醸造、写真右 太田與八郎商店)。最盛期には5店の醸造元がありました。QRコードから関連情報をご覧ください。

問 商工港湾課みなとまちづくり係 ☎022-364-1124